せいけん詩集

第二篇

作：近藤せいけん

長い梅雨

大山は　今日も　見えない
曇っていて　その姿を見せない
曇り　雨　曇り　雨
なかなか明けない　梅雨
真夏の八月だというのに　涼しい
稲　野菜　果実　みんな暑い青空を
待っている
カンカン照りでも　いいから
夏空よ　早く　こい！　こい！

大山は　今日も　厚い雲におおわれ
その姿を見せない
梅雨よ早く　明けろ
この日本から　遠ざかれ
八月だ、ぞ～　真夏だ、ぞ～
田んぼのどじょう　カエル　トンボ
みんな　暑い青空を　待っている
カンカン照りでも　いいから
夏空よ　早く　こい！　こい！

「収穫の秋」

田んぼの上を　赤とんぼが舞う
稲穂が黄金に染め　頭をたれる
涼風が稲穂を　つぎつぎと吹き
波うってゆく
秋　秋　　秋が来た
収穫の秋がきた
大山にうろこ雲がかかる
青空が高くなった

沢山の赤とんぼが舞う
すずめがいそがしそうに
飛びかう
秋　秋　　秋が来た
収穫の秋がきた
幼子がとんぼを追う
白い網が　黄金色の
一本道を行きかう
たわわの稲穂が　涼風にゆれる
空が高く澄んできた

『相模川恋歌』

小田急線の鉄橋を
渡るとあなたの住む町
いつも　微笑んで
改札口に立っていた
手をつなぎ　町中を歩く
あなたの暖かみに
心がもえる
川畔をただただ　歩く
相模川静かに流れ
ここはあつめぎ町
恋の町

見つめられると
あなたの
すんだ瞳がまぶしい
たわいない話に　心がおどる
恋という名の　一ページ
いつまでも　一緒にいたいと
時がながれる

相模川静かに流れ
ここはあつめぎ町
恋の町

『中津川慕情』

水　澄み　清きながれ
中津川　山間をめぐり
里人の暮らしの基
岸辺に立てば
鮎釣り人　静かに立たずむ
夕闇にうかぶ　平山橋
なつかしき　故郷の川霧
うつくしき　川よ

風　静かに　降ろし
中津川　小さなさざ波
里人に　静かな時を与える
岸辺に立てば
仏の山　おおらかに聳え
糸の里　半原
なつかしき　故郷の風
うつくしき　川よ